昨年度の付帯意見への対応

2026年度国立研究開発法人国立がん研究センター
東病院臨床研究外部監査委員会　資料1
（会議後に表現の適正化等の軽微な修正を実施）

2026年8月17日　開催

付帯意見	当院の対応内容
① SCRUM-Japan 等の取り組みを含め、東病院の臨床研究は世界をリードするような役割を果しており、非常に高く評価できる。引き続き、ドラッグロス等の問題解決も含めて、世界のがん領域をリードしてほしい。	SCRUM-Japanについては、症例登録や国際展開、政策提言に取り組んでおります。 また、昨年度はICGC-ARGOについて日本で初開催を行っており着実に取り組みを進めてまいります。 また、ドラッグロス等についても、超早期臨床導入に関する取り組みを新たに始めるほか、治験エコシステム事業や各種治験制度等に関する取り組みを進めております。 上記のアクティビティ以外でも、我が国の臨床研究に関連する問題解決に努めていきたいと考えておりますので、今回の委員会でも忌憚なくご意見を頂けますと幸いです。
② DXの推進やAIの活用により、世界水準のデータ基盤の構築とその利活用を進めてほしい。	AIを活用した治験患者スクリーニングの新たな共同研究、AIを用いた臨床試験業務の効率化の取り組み及び電子カルテデータの自動抽出とそれを海外のデータと統合解析を行う取り組みを、DX関係の活動内容として実施しております。前回頂いたご意見も踏まえてこのような取り組みを進めており、AI・リアルワールドデータの利活用やゲノム・マルチオミックス等の利活用を進めていきたいと考えております。また、今回の委員会でもご意見を頂けたらと考えております。
③ 専門性の高い観点から、医療者だけでなく非医療者のエキスパートの意見も集約した上で、世界から見た日本の課題解決を目指して国に対して政策提言を行ってほしい。	新しい臨床導入スキームの提案、治験関連の制度検討及びリアルワールドデータ利活用についての提言などの活動を実施しております。また、少し観点は異なりますが、NP(ナースプラクティショナー)による治験関連業務や、就業支援・PPI(Patient and Public Involvement)活動などを実施しています。このように、医療者、行政側、患者家族の皆様などの視点を取り入れつつ、一体となってがん医療および革新的医療開発に関連した課題解決に取り組んでいけたらと考えております。